

V：平成25年度 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」主催事業

地域リーダー養成講座

「そうぶんが避難所に!? ～いますぐ考えておきたい災害対策～」事業報告

(1) 事業概要

① 趣旨

本講座は、男女共同参画の視点を持って地域で活躍できる人材の育成を目的として毎年度実施している研修学習事業をより発展させ、(公財)三重県文化振興事業団全体として取り組むものである。

平成25年度は、先の阪神淡路・東日本などの大震災での経験を経て更にニーズが高まっている「男女共同参画の視点での防災・災害対策」について、特に「男女共同参画の視点での避難所運営」をテーマに実施。講座を通して、参加者自身が防災への取組等、地域活動に活かせる男女共同参画の視点を得ることを目指す。

また、三重県総合文化センターは災害発生時に津市の指定避難所となっていることから、本講座では災害時におけるセンター職員の対応や活動について実際の避難所運営を想定した実地訓練を兼ねて行い、その学習経験を踏まえ現実感の高いセンター独自の「災害発生時対応マニュアル」の作成を目指して開催するものとする。

② 対象

テーマに関心のある人、地域で防災活動に取り組む人、自治会や学童保育、民生委員など地域活動に取り組む人。初回(8/10)のみ子どもも参加可。

③ 日時／会場

第1回：平成25年8月10日(土)10:30～16:30(三重県文化会館1階 レセプションルームほか)

第2回：平成25年8月11日(日)13:30～16:30(三重県文化会館1階 レセプションルーム)

第3回：平成25年8月24日(土)13:30～16:30(三重県男女共同参画センター1階 生活工房)

第4回：平成25年9月7日(土)13:30～16:30(三重県男女共同参画センター2階 セミナー室A)

④ プログラム概要

テーマ：「男女共同参画の視点での避難所運営」

初回は、三重県総合文化センターを避難所に見立て、災害発生直後を想定した避難所運営体験を実施。さらに「避難所運営ゲーム(HUG)(*)」をワークとして実施し、その体験を踏まえて講師から被災地での事例紹介を含めた「災害発生時の男女共同参画視点の重要性」についての講義を行う。

また、第2～4回は、講義やグループワークを行いながら、ソフト・ハード両面からの課題やその対策、取組について議論しながら、理想像に終始しない現実感のある「男女共同参画の視点での避難所運営」について考える。

(*)避難所運営ゲーム(HUG)は、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

男女共同参画視点での防災講座〔事例紹介〕

⑤ 講師

講師・講座監修: 浅野 幸子さん

〔東日本大震災女性支援ネットワーク運営委員・研修プロジェクトコーディネーター
早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」客員研究員
東京女学館大学非常勤講師〕

講師: 福田 紀子さん〔東日本大震災女性支援ネットワーク プロジェクトマネージャー〕

避難所運営ゲームHUG 講師: 小宮 貞則さん〔三重県防災対策部 防災企画・地域支援課〕

南 隆男さん〔三重県防災対策部 防災企画・地域支援課〕

(2) 各回講座内容

第1回 (8/10) : 「そうぶんが避難所に!? ～体験から考える避難所運営～」

内容: 三重県総合文化センター内の施設(文化会館 1階レセプションルーム)を避難所に見立て、参加者が“避難者”として様々な役割に就き課題への対処やディスカッションを行う「避難所運営体験」を実施。講師から「男女共同参画視点での避難所運営」について概要や必要な視点についての講義の後、場所を移動して「避難所運営ゲーム HUG」を実施。

① スケジュール

10:00～ 受付

10:30～ 「避難所運営体験」 ※実施内容は ④資料「避難所運営体験シナリオ」参照
基礎講義

13:50～ 移動休憩

14:00～ 「避難所運営ゲーム(HUG)」

16:10～ まとめ

16:30 終了

② 参加者数

参加者数/56名(大人:47名、子ども:5名、見学:4名)

新規参加率/59.4% 男性参加率/51.8%

③ アンケート結果

回答数/42名(回収率 75.0%)

満足度/76.2%(4段階評価の第1位集計割合/第2位まで:97.6%)

意見抜粋

- ・非常に良い企画。今後も継続してほしい
- ・防災対策を考えるきっかけになった
- ・防災についてももっともっと勉強していきたい
- ・体験できた事を大事に伝えたい
- ・避難所運営は日頃から訓練をする必要があると理解した
- ・地区活動への講座を考えてほしい
- ・HUGゲームでは各班の意見が出て参考になった

男女共同参画視点での防災講座〔事例紹介〕

- ・班のリーダーに女性になっていたことで自分も安心できた。やっぱり女性の声、女性のリーダーは必要だということを改めて感じた
- ・避難所運営体験ができてよかった。実際はもっと混乱すると思われるが、うまくいくのか心配
- ・中身の濃い内容であった。今日の研修を自分の地域に落として考えてみたい
- ・「体験する」「想定する」ことが大切だと改めて思いました。良い企画をありがとうございます
- ・避難所での活動の一助となればと参加したが、運営の難しさが分かって本当に一助となれるのかかえって不安になった
- ・子連れでしたが、子どもが参加できず時間を持て余してしまった。事前に案内を見てはいたが、内容や時間割り振りがつかめず困った

④ 資料

「避難所運営体験シナリオ」

※掲載のシナリオは進行役用として作成されたもので、講座当日の状況とは異なる部分があります

+++++

地域リーダー養成講座「そうぶんが避難所に！？～いますぐ考えておきたい災害対策～」 避難所運営体験シナリオ

【レセプションルーム】準備

- ・正面左に机×2&イス(講師用)、進行は正面右のコントロール机を使用
- ・スクリーン&モニター(PCからパワーポイント投影)、マイク
- ・パントリーに配給品準備(アルファ化米・500ml水・菓子・段ボール50枚)、アルファ化米調理用の水も用意
- ・フロアには机など備品一切なし。A3用紙に「A」→「H」までアルファベットを記入し、床に置いておく(当初のチーム分け用)
- ・見学者用イスをフロア最後方に10脚
- ・ロビーに受付用机×2と、名簿記入用に机+筆記用具を用意、避難所スペース用段ボールキットを設置(講義開始後)

時刻	内容	備考
10:00	<p>【受付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到着した方から「避難者名簿(津市マニュアル様式③)」を記入していただき、受付へ提出 ・受付順にチームを振分け(A→Hの8チーム)、フロアのその文字の周辺で待機してもらう ・人数調整(1チーム大人5～6人)、お子さん連れ(3組)が同じチームに重ならないように注意 ・各チームにセンター職員が1名ずつ入り、施設のことなどの質疑に対応できるようにしておく 	資料配布
	<p>【講座開始前のお知らせ】</p> <p>「まもなく、平成25年度地域リーダー養成講座「そうぶんが避難所に！？～いますぐ考えておきたい災害対策～」、「避難所運営体験」を始めます。</p> <p>これからの体験では、いろいろな設定のなか、皆さんに避難者として様々な作業やディスカッションをしていただきます。</p> <p>体験の進行はこちらで行いますが、皆さんは実際の避難所をイメージしていただきながら、作業やディスカッションに積極的にご参加ください。</p> <p>今回講師をお願いしております、東日本大震災女性支援ネットワークの浅野幸子さん、福田紀子さんには、体験のあいだ皆さんの中を回っていただきます。ご紹介は後ほど、改めて行います」</p>	<p>開場時からパワーポイントでリピート投影</p> <p>開始2分前に同内容をアナウンス</p>

男女共同参画視点での防災講座〔事例紹介〕

<p>10:30</p>	<p>【アナウンス①】開始 「それでは、ただいまから“避難所運営体験”を始めます」</p> <p>・避難状況の設定を告知(パワーポイントで投影&読み上げ)</p> <p>* 8/10 土曜日・午前 9 時 32 分、静岡県沖を震源とするM8.7 の地震が発生。 津市周辺は震度 6 強の揺れに襲われました。</p> <p>* たまたま地元地域主催の夏イベントに参加するため「そうぶん」に来ていたみなさんは立っていることもできず、床にしゃがみ込みました。 周囲からは叫び声や泣き声も聞こえます。</p> <p>* 揺れが収まってから周囲を見ると、揺れであわてて転んだり、ガラスで足を切ったりなどケガをしている人もいます。</p> <p>* この日「そうぶん」には数百人の利用者があり、さらに地震発生から1時間ほどすると、周辺から帰宅困難者や住民などがさらに 100 人ほど避難してきました。</p> <p>* 当初から「レセプションルーム」に集まっていたみなさんは、周囲の状況を考え、この「そうぶん」を避難所として開設すると判断。その運営を一緒に担うことになりました。</p>	<p>照明 DOWN パワーポイント投影</p>
<p>10:33</p>	<p>【アナウンス②】運営班分け 「避難所の開設・運営にあたっては、避難者の皆さんが運営班として様々な作業にあたります。これから各チームの皆さんには“運営班”として、それぞれの役割で作業やディスカッションを進めていただきます」</p> <p>「各チームからおひとり、前の机から1通、封筒を選んでください。 中に入っている紙に、各チームの運営班名とその役割が書いてあります」 「各班の役割についてチームの皆さんで共有し、簡単な自己紹介をした後、班の代表者を 1 名決定してください」</p> <p>・代表者 1 名が前に出て、くじびき（現実にはくじびきしている場合ではないが…）</p> <p>《総務班兼避難所運営委員会》《情報班》《被災者管理班》《施設管理班》 《食糧物資班》《救護班》《衛生班》《ボランティア班》 の 8 班</p>	<p>照明 UP</p> <p>封筒(8通) …活動班名と役割、次のフェーズ①課題、津市マニュアル1冊(参考資料として)</p>
<p>10:43</p>	<p>【アナウンス③】 「それでは、発生から 1 時間が経過した現在の状況をお伝えします。スクリーンをご覧ください」</p> <p>・パワーポイントを投影し、読み上げ</p> <p>* 建物…一部ガラスの破損などがみられるが、大きな亀裂などはなく被災者がとどまっても問題はないことを、施設職員が確認した。</p> <p>* ライフライン…ガス・水道・電気は全市ですべてとまっている。下水管は現在点検中。</p> <p>* 避難者数…500 人とも、800 人ともいう人がいるが、施設全体での正確な数がまだわからない。</p> <p>* 避難者内訳…以下のような方たちがそれぞれ複数いることはわかったが、それぞれのくらの人数で、どのような状況か、詳しくはわからない。 (足腰の不自由な高齢者 ・乳幼児 ・妊婦 ・車椅子利用の人 ・目の不自由な人 ・耳の不自由な人 ・外国人)</p> <p>* 備蓄品(食料・水・毛布など)…現段階では不明</p>	<p>パワーポイント投影</p>

<p>10:45</p>	<p>【フェーズ①】 「被災から1時間経ち、施設内はこのような状況です。 運営委員会の立ち上げ準備が始まり、活動班の責任者もほぼそろってききましたが、どのように被災者対応をするか、詳細はまだ決まっていません。 そうこうしている間にも、手当や支援が必要な被災者がいたり、避難してくる人が徐々に増えたり、トイレ問題が起きたりしています」</p> <p>「先ほどの封筒の中には、もう1通小さな封筒が入っています。 中の文書を確認してください。班ごとに、違う課題が記入されています。 課題について、この状況でどのような対応をするべきか、各班で話し合ってください。 時間は約20分間です」</p> <p>・各班の課題(パワーポイント投影・読み上げなし)</p> <p>《総務班 兼 避難所運営委員会》 運営体制や当面やることについて話し合おうとしているが、避難者が外部からも次々とやって来ており、各班からも様々な問題が報告されてきています。 まず最初にやるとよいと思われることを、3つ挙げてください。挙げられたら、いまの状況でそれらをどのように実行していくか、それぞれ具体的に考えてください。</p> <p>《情報班》 運営委員会が方針や体制を決める前に、被災者の間でデマが流れはじめ、情報班のメンバーは以下のようなことを聞かれています。それぞれどのように対応しますか？</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「県内は壊滅か？熊野のほうはどうなっているのか！？」 ②「家族と連絡がとりたいが電話が通じない！無線があるだろう？貸してくれ！」 ③「この建物に大きな亀裂が入っていて、余震があったら壊れるかもしれない」 ④「自宅にいたが水も出ず電気も付かないのでここに来た。ここにいれば大丈夫か？」 <p>《被災者管理班》 ① 避難者名簿を作成したいが、名簿様式コピーのストックはすべて使用してしまい、コピー機は電源確保のため使用できない状態で、新たに様式をコピーできません。また、広いそうぶん全体に被災者がおり、協力者を得たり仕組みを作らないと名簿を作ることができません。この状況のなか、どのように名簿を作成しますか？ ② 名簿コピーのストックもあり、自家発電でコピーも可能な状況の場合、どのようにそれを配布・収集するかを決めてください。(優先的に配慮すべき人はどういう人かを想像しながら)</p> <p>《施設管理班》 そうぶん内でガラスが割れている場所があるとの噂が聞かれます。どうしますか？ また、周辺から被災者が次々と集まってきて、スペースが足りなくなってきました。どのように対処しますか？(どのような部屋・スペースが必要かについても考えてください)</p> <p>《食糧物資班》 物資の種類・数と、避難者の数を把握する必要があります。どうしますか？ また、赤ちゃんをかかえたお母さんから「粉ミルクを飲ませたいのでお湯が欲しい」と懇願されました。どのように対処しますか？</p> <p>《救護班》 出血している人、骨折している人がいるようです。また、瀕死の重傷者も運ばれて来ました。どのように対処しますか？</p>	
--------------	--	--

男女共同参画視点での防災講座〔事例紹介〕

	<p>《衛生班》 避難者がトイレを使い、亀裂の入った下水管にトイレットペーパーや汚物が詰まって便器から汚水があふれたり、階下で漏れたりしています。また、貴重な受水槽に残った水がトイレにどんどん使われているようです。どうしますか？</p> <p>《ボランティア班》 本来は被災者支援に来た外部ボランティアの受け入れ調整が役割ですが、まだ外部からは誰も入っていません。周辺から被災者が次々とそうぶんに集まり、トイレが汚物にまみれたり、ケガをしていたり、体の不自由なお年寄りや車いす利用の人も見られます。そこで、各班の手伝いを含めて円滑な避難所運営のために手伝ってくれる人を募ることにしました。どのように呼びかけ、当面何を優先的に対処をしていきますか？</p>	
11:05	<p>【フェーズ②】 「それでは、次の課題に移ります。今から課題の入った封筒を配布します」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・封筒を配布(班ごとに違う課題が入っている) <p>「次の課題は、班ごとに時期や状況が異なります。各班の状況と課題を確認してください」 「話し合っている途中で、他の班から問い合わせを受けたり、作業の協力を依頼されたり、物資が配給されたりするかもしれません。その場合は、話し合いをいったん中断して可能な範囲で対応し、落ち着いたらまた話し合いを続けてください」</p> <p>「時間は約 60 分間です」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の課題(パワーポイント投影・読み上げなし) <p>《総務班 兼 避難所運営委員会》 作業:以下の作業を行ってください。 避難所運営委員会を立ち上げます。 資料(課題と同封)を参考に「委員会規約(資料①)」「委員会名簿作成(資料②)」「生活ルール(資料③)」を作成します。完成したものは広報しますが、広報の方法も考えてください。</p> <p>《情報班》 状況:地震から1週間が過ぎました。さまざまな要望が被災者から挙がってきます。 課題:女性用の生理用品や、赤ちゃん用のミルク・哺乳瓶・紙オムツなどが足りず、必要数もうまく把握できていません。どのように数を把握しますか？ また、夜、トイレに行こうとしたら、廊下でチカンに遭った女性や子どもが複数いるとのうわさを聞きました。それぞれどのように対応しますか？</p> <p>《被災者管理班》 作業:以下の作業を行ってください。 被災者名簿を整理し、人数・世帯数などを確認、実数との照合、 運営委員会(総務班)・食糧物資班への報告、 「避難施設状況報告書 初動期用(津市マニュアル様式⑤-1)」の作成 この時、女性用の生理用品や下着などを、どのように配布すればよいかについても話し合ってください。</p> <p>《施設管理班》 作業:避難生活の長期化に備え、避難者が就寝できるようにスペースを整えてください。 (作業にはどの班のどんな協力が必要かについて検討してから始めてください) ・その後、以下について考えてください。</p>	<p>PP切り替え</p> <p>封筒(8通) 各班の課題 記載</p> <p>この間、ロビーに 段ボール (プライベートスペース) を設置</p>

	<p>状況:地震から4日ほど経ちました。避難生活が長期化することが予想されます。</p> <p>課題:女性が着替えたり体を拭く場所が無かったりして、困っているので対応してほしいと運営委員会から依頼されました。また、赤ちゃんや幼児を抱えた母親たちからは、「周囲の人に泣き声や騒ぎ声で疲れるので、黙らせるか他に移ってほしいと言われ、どうしていいかわからない」と訴えられています。ちなみにメンバーの中にも、赤ちゃんや孫と一緒に避難している人もいます。</p> <p>それぞれについて、どのように対応すればよいでしょうか。</p> <p>《食糧物資班》 作業:以下の作業を行ってください。</p> <p>夜を迎える前に就寝できるスペースを作るため、被災者名簿(今日の場合は参加者名簿)をもとに被災者に段ボールを配布してください。(どの班のどんな協力が必要かを検討してから始めてください。また在庫の把握、配給方法についても検討してください)</p> <p>物資を確認し、12:10 ごろに全員に配給してください。(調理が必要な場合はそれも行ってください)</p> <p>配給後、もし避難者の数に対して10食足りなかった場合、どのように対応すべきかについて話し合ってください。</p> <p>《救護班》</p> <p>状況:地震から3日ほど経ちました。</p> <p>課題:暑さや水・栄養不足で、体が衰弱するお年寄りが増え始めました。階段や長い廊下、トイレなどに苦勞しているようです。また、車イス利用の人は女性で、着替えやトイレで苦勞しているようですが、家族はおらず一人のようです。目や耳の不自由な人は、情報が入りにくく、食事を貰い損ねたりしているようです。</p> <p>それぞれの避難者に、どのような配慮をしますか？</p> <p>《衛生班》</p> <p>状況:地震から1週間ほど経ちました。衛生体制などがようやく整って、消毒薬なども救援物資で入ってきたため、手洗いなども徹底するようになりました。</p> <p>課題:しかしそれでも、体調を崩して夏風邪になる人や、ノロウイルスで倒れる人も出てきました(これは感染します)。病院は重症患者対応で受け入れてもらえません。また、アトピー性皮膚炎の子どもが2人おり、お風呂にも入れず体中が赤くはれ上がってしまっています。女性たちも下着が替えられず、かぶれる人が出てきました。どう対応しますか？</p> <p>《ボランティア班》</p> <p>状況:地震から2日目に、県内の学生ボランティアグループが避難所を訪ねてきました。</p> <p>また地震から1週間ほど経つと、さまざまところから支援の申し出が来るようになりました。避難所運営は24時間体制で、各班の責任者たちにも疲労の色が見えています。ボランティアの中には、思い込みで自分のやりたい支援(心のケアがしたい・子ども支援がしたいなど)を主張する人がいます。また、防犯上のこともあり、ボランティアたちにむやみに施設に入って勝手に支援をしてもらうわけにはいきません。</p> <p>課題:外部からのボランティアの力を生かすことは重要です。うまく支援を受けるために、ボランティア班としてどのような体制づくりをしたらよいでしょうか。考えてください。</p> <p>また、女性ボランティアさんに特に手伝ってもらおうとよと思われる支援はなんのでしょうか？</p>	
12:15	<p>【アナウンス④】昼食休憩</p> <p>「食糧物資班から配給品が配られました。こちらは昼食を兼ねて試食していただく非常食です。ここからは昼食休憩を兼ねた体験の時間となりますので、どうぞお召し上がりください。必要な場合は食事しながら話し合いを進めていただいても結構です。</p> <p>トイレへ出ていただいても大丈夫ですが、全体講座は13:00 ごろから再開しますので、それまでに全員こちらのお部屋にお戻りください」</p>	

男女共同参画視点での防災講座〔事例紹介〕

	「本日皆さんにお配りした配給品は、三重県と、生活協同組合コープみえ様のご協力をいただいております」	
	<p>【番外編】就寝時の体験 「それでは、せっかくの機会ですので、夜、就寝するときのような様子になるのかを皆さんに体験していただきたいと思います。 これから数分間、照明を落とします。配給された段ボールに横になってみてください。 段ボールの上で眠るときの寝心地や、隣の方との距離感など、被災した直後の夜をイメージしながら少し休んでみてください。それでは、消灯します」</p> <p>※落ち着いたところで「赤ちゃんの泣き声(効果音 CD)」を流す(大きめの音量で)</p> <p>「いかがでしたか。今は間に仕切りのない状態でしたが、スペースを仕切る避難所用の段ボールキットがあります。部屋の外に展示しておりますので、お時間があつたらぜひご覧になってください。亀山市の(株)ユーパックさんのご協力をいただき、展示しております」</p>	<p>食事が終わり、話し合いも一段落していたら様子をみて実施</p> <p>消灯(3~5分) 効果音 CD</p> <p>点灯</p>
13:00	<p>【アナウンス⑤】講義開始 「それでは講座を再開します。 ここからは、講師からお話をいただきたいと思います。 改めてご紹介させていただきます。今回の講座で講師をお願いしております、東日本大震災女性支援ネットワークの浅野幸子さん、福田紀子さんです。 それでは、よろしくお願いします」</p>	資料配布
	【講義】浅野さん・福田さん	
13:50	<p>【アナウンス⑥】HUG への誘導 「浅野さん、福田さん、ありがとうございました。」</p> <p>この後は、避難所運営ゲーム HUG を行います。HUG は別会場となりますので、皆さん荷物を持って、上の階の大会議室へ移動してください。この部屋には戻りませんので、忘れ物のないようご注意ください。トイレに寄っていただいても大丈夫ですが、14:00 から始めますので遅れないようにお願いします。」</p>	
	【移動】「避難所運営ゲームHUG」会場へ	

配給展示物資協力： 生活協同組合コープみえ・株式会社ユーパック・三重県

+++++

男女共同参画視点での防災講座〔事例紹介〕

⑤ 会場の様子（写真）

避難所運営体験



避難所運営ゲーム HUG



